

全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループの 設置について(案)

1. 趣旨

現在進められている1人1台情報端末や高速大容量 ネットワークの整備や学校における働き方改革の観点も踏まえつつ、全国学力・学習状況調査を学校パソコンを使用したオンライン調査として実施する場合に必要な準備や整理すべき課題についての専門的かつ 技術的な検討を行う。

2. 検討体制

全国的な学力調査に関する専門家会議(既存)

全国学力・学習状況調査の13年間の成果と課題を踏まえ、今後の全国的な学力調査の制度設計(調査の目的、対象、調査内容など)についての専門家による検討を行う。

全国的な学力調査のCBT化検討WG(新設)

全国学力・学習状況調査をCBT(コンピュータを使用して実施するテスト)化する場合の専門的かつ技術的な検討を行う。委員は、テスト理論、CBT、設問作成の専門家等で構成。

3. WGの検討事項

専門家会議における今後の全国的な学力調査の在り方についての検討、GIGAスクール構想等による学校のICT環境の整備及び活用の進捗を踏まえ、全国規模で実施可能な学校パソコンを使用したCBT化の方法、実施体制及びその実現に向けた進め方等について専門的・技術的な検討を行う。

○CBTによる全国的な学力調査の方法

以下の論点を踏まえ、具体的な実施方法について検討する。

- ・日々の学習におけるICTの活用と全国的な学力調査との関係の整理
- ・CBTの利点を生かした学力調査の在り方
- ・CBT特有の課題・論点
- ・IRT(項目反応理論)の活用の可能性

○実施体制等

- ①CBTシステムの在り方(業務管理、CBT、採点、集計・分析、問題プールなど)
- ②全国的な実施に至るまでの工程
 - ・実証研究、システム開発や試行等を含めたスケジュール
- ③文部科学省、国立教育政策研究所、事業者の役割分担

等

4. 検討スケジュール(予定)

- 令和2年4月:「全国的な学力調査に関する専門家会議」(持ち回り)で「全国的な学力調査のCBT化検討ワーキンググループ」を設置
- 令和2年4月~:ワーキンググループにて検討(会議は原則として公開で行う。当面はインターネット活用等による情報の共有、意見交換等を中心に行う。)
- 令和2年7月頃:令和3年度概算要求に反映すべき事項を中心に、ワーキンググループとしての「中間まとめ」を行い、専門家会議に報告
- 令和2年8月~:以後も継続的に、進捗状況の評価・検証及び推進方策の検討を行う。